

建設トップランナー倶楽部
代表幹事(東工大特任教授)



よねだ・まさこ お茶の水女子大理学部数学科卒。昭和53年新日本製鉄(現日本製鉄)入社。平成18年東京工業大特任教授。同年建設トップランナー倶楽部を設立し代表幹事。19年慶応大特任教授。令和3年4月から東工大特任教授。日本学術会議会員・第三部副部長。山口県出身。

米田 雅子さん(66)

地域の中小建設
グリーン戦略自信

トップは語る

——建設トップランナー倶楽部の活動は

「地域で先駆的な活動を続ける中小建設会社の経営者の集まりで、平成18年に設けた。経営者、大学教授、地方の建設専門紙記者など60人が幹事となって運営し、フォーラムを開くほか、倶楽部ニュースを約600社に配信している。メンバー企業は本業の建設を軸に、農業や林業、水産業、福祉などの事業も手がけている。複数の本業を持つ複業化により会社の経営が安定し、地域の雇用を創出している」

——複業化した建設会社の地域での役割は大きい

「建設会社が核となって地域の産業・雇用を守っている。また『インフラの町医者』としてインフラ建設だけでなく、災害があれば率先して復旧作業にあたり、老朽化するインフラの保守も行っており、地域になくはない存在だ」

——地域の建設会社の環境問題への対応は

「建設会社は環境を破壊する、といったイメージを持たれているが、現実とは違う。2050(令和32)年のカーボンニュートラル実現に向け、メンバー企業は自然との共生を目指した活動を展開している。環境、グリーン戦略をテーマにしたフォーラムを6月に開き、地域の建設会社の役割などを議論した」

——建設会社のイメージが変わる

「環境に力を入れる会社には、環境問題に関心を持つ若者が入社するようになってきた。グリーン戦略は建設会社と、そこで働く人に自信と誇りをもたらしている」
(遠藤一夫、写真も)